

ガンジーにおける「サティヤーグラハ」と 池田大作における「人間革命」

——サティヤーグラハ100周年に寄せて

N・ラダクリシュナン
栗原淑江 訳

変革の主体者としての個人

尊敬する川田博士、よき友人であるアカーシ・オオウチ博士、そして学識ある友人の皆さま。本日、「サティヤーグラハ」百周年と「原水爆禁止宣言」五十周年を祝う佳節に当たり、東洋哲学研究所において講演を行えることを、心より光栄に存じております。

ガンジーが具体化し、展開したサティヤーグラハの概念と実践は、「人間革命」によって例証された現代の概念と実践のなかで検証されるときに、よりよく理解

されるでしょう。インドの言語であるサティヤーグラハ (Satyagraha) は、二つの言葉が組み合わせられたもので、ガンジーが南アフリカで造ったものです。「Sat」は真理を意味し、「Agraha」は持ち続けることを意味します。こうして、「サティヤーグラハ」は、あたかも赤ちゃんが母親にしがみつくように、真理を持ち続けることを意味するのです。しっかりと母親にしがみついた赤ちゃんを、母親から引き離すことは、容易ではありません。ガンジーは、サティヤーグラハを「愛の力」「魂の力」「真理の力」を表すものとして用いました。

行動の要請——サティヤグラハと

人間革命の基盤

真理を持ち続けるには、また自身や人生の理想、究極なるものへの信念をしっかりと持つには、大いなる純粋な信念を必要とします。それができたときにはのみ、人間は本物のサティヤグラヒイ（サティヤグラハの信奉者）になることができます。サティヤグラヒイは、人生のもっとも高尚な理想にかかわる人間です。

この考え方を「人間革命」の概念へと転じてみましょう。すると、両者が驚くべき類似性をそなえていることがわかります。両者の間には、注目に値する顕著な近似性があり、一種の共生関係が存在します。ガンジのサティヤグラハと池田博士の「人間革命」の概念には、行動の要請と同時に、個々人の変革、エンパワメント、および非暴力的な社会変革を見出すことができます。

ガンジが百年前に導入したサティヤグラハは、個々人のエンパワメント、道徳的な再武装、社会変

革、および闘争を非暴力的に処理する手法を探求しました。こうした新しい理念は、抑圧された多くの声なき人々にとって、比類なき力強い武器となりました。ガンジにおいて、それはまた、非常に強力で効果的な道具となりました。サティヤグラハの核心は行動なのです。

一方、恩師・戸田第二代会長に薫陶を受けた池田博士は、高邁な活動を展開するための効果的な基盤として、「人間革命」の理念をすえました。池田博士は、変革のための生産的な目的とリーダーシップの方向に人間の潜在的なエネルギーを動員するという戸田会長の夢を行動に移しただけでなく、諸価値の創造にかかわり、必要とあらば大義のために生命を賭しさえするという、類まれなる決意を示しています。

変毒為薬という「錬金術」

私たちは、大義を追求する決意をしているでしょうか。多くの人は、富を得たり、物質的な快楽を高めようとしたりする決意を示すことはありません。しかし、

大義のために生命を賭す決意をしている人はいるでしょうか。私たちは、いかにして、他の人々の幸福と繁栄を促進するのでしょうか。また、私たちは、他の人々の安寧について配慮するのでしょうか。私たちは、少なくともある程度は、変革の主体者になることができるのでしょうか。変革の主体者になることができないのでしょうか。変毒為薬という「錬金術」とは、いったい何でしょうか。これらすべての問いに答え、生命の驚くべき不可解な課題に対してカギを提供するのが、「人間革命」なのです。

変革についてのガンジーの認識は、生命について、および変革の主体者としての個々人の役割についてのビジョンと一致していました。彼は、変革とは生命の方法であると考えました。変革がなければ、生命は動かず、停滞してしまいます。変革の歯車は、太古から回り続けており、ある種の進歩を先導します。石器時代から現代のサイバー時代へと至る進歩と、生き残りのための前進において、人類が記録してきたすべての進歩が、同時に、変革を探索するための人類の断固とした決意を示しているということは、否定できません

ん。池田博士にとって、これこそが「人間革命」なのです。

前途に立ちふさがるものに人類が気づくよう準備させることが、「人間革命」の重要な側面の一つです。明日いかなる変革が私たちを待ちかまえているか、また、私たちの生活のリズムがいかに変化するかについて、私たちは知らないのです。

母親がもつ英雄的資質

そうした状況に対して責任を負う要因は何でしょうか。それが変革に対する欲求であることは、疑う余地がありません。ほとんどの人々は、変革の特質と本質について意識していないか、気づいていません。しかし、勇敢な魂の持主は、物質的、精神的、身体的、個人的、社会的変革へと進む勇気を示しているのです。そうした変革のプロセスは、長く、しばしば挫折感を抱かせる、困難で、苦しみに満ちたプロセスです。まるで子どもを出産するプロセスのようなものです。

ここで思い起こしたいのは、人生においてもっとも

感動的な瞬間が、子どもの誕生であることです。母親は子どものために死ぬ用意ができており、そのことが母親を人間生活においてもっとも神聖な存在とさせるのです。世界のすべての母親がもつ、必要とあらば子どものために生命を賭すという勇敢さを称えたいと思います。これは、通常の英雄的資質ではありません。それは至高の英雄的資質なのです。

さて、釈尊は、すべての生きとし生けるものの中に存在する相关性（縁起）と宇宙規模の関係性をもつ重要性を強調した点で、もっともすぐれた教師でした。私たちが思想を表現する際は、私たち自身の認識に基づくだけでなく、他の人々の夢という現実にも基づいているのです。私たちは、他の人々の現実にも反映されているのに気づきます。こうした認識は人類を結びつけます。そして、軋轢と狭量さが私たちの精神的な地平を曇らせない限り、池田博士が予見するように、私たちは人類共通のかけがえのないゴールに向かって駆けてゆく運命にあるのです。

勇者の盾

ガンジーは、独得なやり方で、サティヤグラハの概念と実践を展開しました。サティヤグラハを通してめざしたガンジーの主な目的は、あらゆる人間が悪に気づくよう準備させることでした。悪を見分けるには、勇気と強い決意が必要です。難題に立ち向かうには、断固とした決意が要請されるのです。ときには逮捕され、破門され、迫害されることもあるでしょう。また、十字架につけられるかもしれません。毒薬を盛られたり、石に打たれて死んだり、銃殺されるかもしれません。人類史において、これらのすべてが目撃されました。それでも、驚くべきことに、これらに逆らい、また逆らい続ける、より大きな力が存在するので、微笑みながら難関に取り組み、心の声を聞いて、自ら奉じる大義のために死を宣告されさえするのは、勇敢な心にそなわる決意ゆえです。決意、確信と勇気は、それらに動機づけられた魂の盾なのです。彼らはまた、精神的な勇気を奮い起こします。

残念なことに、多くの人々は、自らの運命に甘んじて、勇気のかけらすら示しません。彼らは、受動的なあきらめの心で、あらゆるものを受け入れます。彼らは自身の影を恐れ、カルマ（業）をのろいます。他の人々が行うことの価値を認めることは、彼らにとって困難なことです。

他方、鼓舞された魂は、危険をものともせずに進進します。彼らは、あるシステムとの闘いを開始するとき、そのシステムが固有の力で反撃をしかけてくることを知りつつ前進するのです。それは自然の理法です。そのことは、社会改革者あるいは変革を行おうとする人はだれでも、敗北に直面する準備をしていなければならぬことを意味します。人生は、バラが咲き乱れる花園であるだけではないのです。人生の途上には、バラよりも多くのとげが存在するでしょう。それが、人生において避けることのできない、厳しい真実なのです。

ガンジーがはじめてサティヤグラハの運動を開始しようと考えた当時、南アフリカには厳しい現実があ

りました。最初に彼に新たな道を探求することを強いたのは、当地で行われていた人権侵害でした。

ガンジーは、南アフリカにおいて、多くの女性たちを闘争の最前線へと迎え入れました。彼は、当時の女性たちが置かれていた状況について深く考えていました。彼は、妻や母、周囲の同僚の女性たちを愛し、尊敬しており、女性たちが平等なパートナーにならなければ、社会変革も単なる夢に終わってしまうとさえ考えるようになっていたのです。ガンジーにとって、女性とは価値の創造者であるだけでなく、生命の基盤でした。「女性を尊敬しない社会には未来はない」と、ガンジーは考えていました。別の折に、ガンジーは、仲間たちに、未来を確固としたものとするために、女性を信頼し、女性を信じ、女性を励ますよう訴えています。残念なことに、今日でさえ、多くの社会の状況はけっして満足のいくものではありません。女性が置かれた状況を向上させようと、「私たちは女性を尊敬しなければならぬ。私たちは女性を取り巻く状況を改善しなくてはならない」と声高に訴える人がいる一方で、

女性のエンパワーメントに向かう動きはほとんど見られないのです。男性優位社会は、こうした問題を軽視しているように思えます。長い歴史をもつ男性支配はまだ続いており、多くの社会で女性たちは従属的な存在として扱われているのです。

ガンジーは、女性たちを尊敬し、信頼することによって、彼女たちを過去の遺風から解放しようとしてきました。彼は、優劣といったような表現さえ憎んでいました。彼は、男性と女性がすべての分野においてパートナーでなければならず、相補的でなければならぬと思っていました。人間はまさしく平等なのです。男性が一人も存在せず、女性だけが多く存在するような社会を想像することができでしょうか。そういう社会があるとすれば、それは非常に醜く、非現実的な社会でしょう。自然の美しさは、共存と協力という現実から生まれます。そして、これを育てるのに必要なのは、互いに対する深い敬意の涵養です。

人類共通の未来は、次のような論破しえない要因を中心に回っています。すなわち、①私たちは皆、平等

である。②私たちは皆、相互に関係づけられている。③他の人間に優越している人間はいない。④私たちは劣った存在ではない。⑤私たちの共通の未来は、これらの現実を尊重し、その真実をはぐくむことにある。

ガンジーが一九〇六年に南アフリカで開始したサティヤグラハ運動の百周年にあたり、これらのできごとのいくつかの局面について考察することは、非常に興味深いことでありましょう。

「原水爆禁止宣言」五十周年

興味深いことに、本年は、戸田第二代会長の歴史的な宣言の五十周年の記念の年でもあります。その宣言は、戦争は悪であり、人類が原水爆というもつとも悪魔的な大量破壊兵器を廃絶しない限り、人類の将来は危うくなってしまうというものでした。この宣言は、世界平和に対する戸田会長の認識と関与の特質を、大いに物語るものであり、戸田会長が人間の生存にいか

に深くかかわったかを示すものです。国連が核兵器廃絶についてまだ考察していない、五

十年前という時代に、このような歴史的宣言を行った先見者がいたのです。この宣言は、大量破壊兵器の脅威と戦うのだという戸田会長の決意を明確に示すものです。おそらく、戸田会長は、立ち上がり、核兵器を悪と断罪する勇気を示し、このような宣言をした、現代における最初の指導者の一人でした。これはまさに歴史的なことです。

これは、非常に重要で非常に深遠なことです。核兵器廃絶を訴える戸田会長の宣言の五十周年という歴史的なときにあたり、私は皆さま方を称えたいと思います。創価学会もまた、核兵器廃絶に関する理念に基づいた献身的な姿勢と努力について称えられるべきでしょう。皆さま方は、平和と非暴力の偉大な推進者です。そして、平和のメッセンジャーであり、地涌の菩薩です。皆さま方が、人類でもっとも偉大な先見者の一人が行った宣言の五十周年を祝うことに、私は心よりお祝いの言葉を述べたいと思います。

本年は、私が創価学会、池田大作博士と交流を始めから二十三年目でもあります。私が最初に創価学会

と接触したのは、一九八四年に、「ブッディズム・フォー・ピース」の第二回会議に出席するために創価大学を訪れた際のことです。十二月二十四日でした。それは非常に素晴らしい日でした。その後、私は、私にとっての磁石——人間の磁石——のような池田会長に会いしました。そして、私たちの交流は、現在まで続いています。私は会長を敬愛し、尊敬申し上げております。私は、会長が、人類のあり方を提示する上で、また人類を非暴力と平和の道へと導く上で、大きな役割を果たしてこられたと考えます。他の指導者たちは、博士を模範としなければなりません。

サティヤーグラハと「人間革命」

さて、私たちの前に二つの高邁な理念があります。一つは、ガンジーの「サティヤーグラハ」、もう一つは、池田大作博士がそのためにたゆまず戦ってこられた「人間革命」です。私たちは、この二つの中に何を見るでしょうか。これらの中心には、個人の概念がありません。サティヤーグラハの概念は、百年以上の歴史の中

で、多くの変化を経ています。第一に、ガンジーは、人々を自らの状況について教育するために、サティヤグラハを用いました。第二に、彼は、人々をエンパワメントするための戦略として、これを用いました。第三に、彼は、人々を糾合し、身体的な苦しみを含む明確な活動へと人々を動員し、参加させるための技術としてこれを用いたのです。

たとえば、南アフリカで、十六歳の女性がガンジーのサティヤグラハの戦いに参加し、勇敢に戦いましたが、逮捕されたことがあります。彼女は、解放された後、結核と栄養失調のため亡くなりました。ガンジーは悲しみに打ちひしがれ、彼女のために嘆きました。これは、本物の指導者が、組織の中の普通のメンバーさえ非常に気にかけること、そして弟子にいかに大きな影響を与えることができるかということ、さらに、彼自身も弟子によって大きな影響を受けることを示す例証です。

これは、本物の指導者の隠れた資質と偉大さを明らかにする証左であると同時に、師弟の関係の強靱さと

特質を示すものでもあります。真の指導者は、弟子たちおよび民衆の安寧のためにのみ導かれるのです。弟子たちもまた、苦しみに巻き込まれても、ほとんど悩まされません。彼らは、自分たちの指導者がすべての人の幸福だけを心にかけていることを知っているからです。

ガンジーは、南アフリカで二十一年間にわたり、またインドに帰国してからは三十二年間にわたり——合計五十三年間——、自由、正義、平等、友愛および人権のために長い闘争を行い、それは、一九四八年一月三十日に七十九歳で暗殺されるまで続きました。それは、あらゆる地にある人々の幸福のために捧げられたものでした。この誠実さと純粋さは、「私の人生が、私のメッセージです」という言葉によく表れています。

ガンジーは、真理の完璧な信奉者であり、真のサティヤグラヒイでした。彼は、自らが信じたものの、自らが語ったものの、自らが実践したものの体現者でした。これこそ、最高の形での「人間革命」なのです。熱望と望みを同一化しようとした指導者、また、カースト

や共同体や国籍や肌の色や出自にかかわらず、あらゆる地域の人々の夢と同一化しようとした指導者であるガンジーは、多くの人々に影響を与えるに違いありません。彼らは、狭量な地域や国の枠組みを破壊し、普遍的な教師あるいは指導者として成長します。彼らは、海をわたって光を発する灯台となるのです。彼らは「マハトマ（偉大なる魂）」あるいは「センセイ」になります。ガンジーと池田大作博士が、その実例なのです。

現在、創価学会は百九十九カ国・地域にメンバーをもち、数百万人が毎日、大きな関心と情熱をもって題目を唱えています。このことは、「南無妙法蓮華経」という唱題の力がこれら数百万人の集合的な精神に及んでいることを、そして池田大作博士のような指導者によって提供されるユニークで啓発的なリーダーシップの成功を、雄弁に物語る証明ではないでしょうか。池田博士は、ガンジーのように、人々が法と一体化し、基本的な態度を変革することによって平和裡に調和して生きるという夢の糾合に成功してきました。

ガンジー、キング、イケダ——その世界観

池田博士における「人間革命」、ガンジーにおける「サティヤグラハ」、およびマーティン・ルーサー・キングにおける「友愛のコミュニティ」は、相互に補完的で、大きく類似しています。これら三人の偉大な人類の指導者は、各々の宗教的伝統に深く根ざしている一方で、人類に対する貢献という点で普遍的な敬愛の的ともなっています。彼らは、全人類を一つのものと見ることができ、希望のない世界に希望をもたらす先駆者です。彼らがインスピレーションの高みへと登ることには理由があります。彼らは今や、「声なき人々の声」となっているのです。

私が創価学会の運動とリーダーシップを賞賛し、支持するのは、そうした理由からです。人々の心に確信を生み出し、人々が他の人々の幸福のために献身するよう励まし、人々が自身の個人的な不幸を忘れるよう励まし、また困難に立ち向かうためにエンパワーメントするよう励まし、彼らのエネルギーを生産的な目的

のために用いるよう手助けをし、最終的には、変毒為薬するよう手助けすることは、果敢で想像力に満ちたリーダーシップを必要とします。これこそ、人間変革であり、人間のエンパワメントです。

サティヤグラハが個々人のエンパワメントと変革を目的とする一方、「人間革命」は人間の変革を促します。人間のエンパワメントと人間の変革は、互いに補いあい、補強しあい、強化しあいます。ガンジーと池田博士は、さまざまな形で人々を鼓舞します。ガンジーはもう生存してはいませんが、彼の哲学は、響き渡り、生き続け、啓発し続けています。そして、津波のように、地球の一つの端から反対側の端まで行き渡り、わき上がっているのです。

一方、池田博士は、至高の献身と使命を身に体し、戦争と暴力のない世界の実現という恩師の夢への責任感に動かされ、世界中を旅し、交流し、対話し、文化的な活動を展開されています。まず教育機関の創立から始め、核兵器廃絶をめざす人々の友好を促進するための展示を開催し、メンバーが活動のためにコミュニ

ティに飛び込むのを奨励してこられました。池田博士は、正義と自由に対するガンジーの情熱を思い起こさせます。博士は、人間が望みうる最高のものを示す「生きている釈尊」、「生きているガンジー」といっても過言ではないでしょう。

人間変革への道

池田博士が私たちの夢の象徴であるのは、疑いがありません。博士はまた、普通の人々を代表し、人間すべてに内在するポジティブな能力を発展させるための奪うことのできない権利を代表しているのです。これこそ人間の変革への道であり、「人間革命」にほかなりません。

これは、新しい世界秩序のためのメッセージです。これは、宗教的な諸価値に深く根ざしており、宗教の最良の伝統から生まれる生命肯定に根ざしています。人間をめぐる状況において宗教が果たす役割を非難することは、流行となっています。しかし、「宗教は死んだ」と公に主張している人々ですら、宗教の役割を認

識しています。また、自らを無神論者と呼ぶ人々ですら、特定のセクトに属しています。宗教は、私たちが必要とする価値の源泉なのです。

動物と人間には違いがあります。私は、動物が宗教をもっているかどうかは知りません。しかし、人間は宗教をもっています。仏教徒、キリスト教徒、イスラム教徒、ユダヤ教徒、ジャイナ教徒、パルシー教徒、シーク教徒、ヒンドゥー教徒などがいます。しかし、人間はどこにいるのでしょうか。人間であり続け、人間としての栄光を賛美するためには、私たちの宗教的な伝統から生まれる精神的滋養、倫理的支持、道徳的教訓、人間的価値と展望が必要なのです。

「人間革命」は、人間の変革へのカギであり、啓発された世界市民へのカギです。ご承知の通り、池田博士は、桂冠詩人であり、諸機関の創設者であり、精神的指導者であり、教師であり、哲学者であり、素晴らしい光彩の特質を結びつけた存在であられます。

「人間革命」は、教科書的なアプローチでもなければ、いかなる宣伝でもありません。それは、人間の生

存のための精神的・科学的な指針なのです。他の時代とは異なる現在のサイバー時代にあつて、人類は、不可解で驚くべき変化をする現実にいかに対処するかという問題に直面しています。ここには、リーダーシップの問題があります。価値創造者である池田博士、創価学会インタナショナル、および皆さま方は、めざましい役割を演じなければなりません。

価値創造への活動

価値創造とは、創価学会の単なるスローガンではなく、池田博士のような献身的で使命感に満ちた指導者のための単なる綱領でもありません。池田博士にとって、それは信条、関与および献身についてのことかなのです。この世において価値を創造するのは誰でしょうか。現代は、金銭の価値を多大に評価する世界です。二十一世紀を生きる人々にとって、唯一の価値は金儲けにあるのです。私は、金銭の価値を非難しているわけではありません。金銭は確かに価値をもっていますが、同時に限界ももっています。金銭問題を超え

た、難しい生活の現実があるのです。

洞窟に住み、生肉を食べていた人間から、現代のサイバー時代の人間への長い変革の旅において、人間を支えてきた力は何だったでしょうか。それは、人類のスピリチュアリティ（霊性、精神性）ではなかったでしょうか。

人間の感性を純化し、洗練させる大きな役割を果たしてきたものとしては、スピリチュアリティと宗教のほかにも、第三の力、すなわち科学があります。スピリチュアリティ、宗教、そして科学が、人類を支えてきたのです。宗教が決定的な役割を演じた時代もありましたが、宗教はまた、人類史上もつとも血なまぐさい戦争に対しても責任がありました。スピリチュアリティの名のもとに戦われた闘争もありました。

科学が原子爆弾と大量破壊兵器を開発したのは事実です。しかし、科学はまた、人類の基本的な多くの問題に取り組んできました。したがって、科学を悪と非難することも誤りです。同様に、宗教をまったく悪魔的であると非難することも誤りです。また、スピリチ

ュアリティを、古くさく非科学的なものであると非難することも、非科学的なことです。私たちに必要なのは、人間生活の様相と質を改善するにあたって、これら三つの統合的な力のバランスを賢明に保っていくことなのです。

釈尊も、独特な偉大な科学者でした。彼の人生から引き出された寓話や、彼のメッセージが偉大な「法華経」を通して人類に伝えられる手法は、まったく科学的なものです。「法華経」を、重要でない寓話として片付けないようにしましょう。「法華経」は、深遠な智慧がおさめられた、もつとも偉大な書の一つなのです。

科学・スピリチュアリティ・宗教の融和

スピリチュアリティを盲目的に受容することは、非科学的で非合理的なことでしょう。また、科学技術の発展を抑制せず無制限に受容することも、不幸をもたらすでしょう。さらに、スピリチュアリティの名で行われるすべてのものが深い真理でないことも、忘れてはならないでしょう。同様のことが、宗教、および宗

教と関連した多くの実践についてもいえます。私たちが必要とするのは、科学、宗教とスピリチュアリティの三つの融和です。その融和が、人間の可能性を開花させ、また、人間のエネルギーを地球上での生活の質を豊かにするために使われるよう変えるのです。

私たちは、生命のかけがえのなさを理解し、また、この素晴らしい贈り物に感謝しようではありませんか。感謝こそ、啓発された集団としての人類の生存のためのカギとなる要素なのです。私たちに必要なのは、人類を涵養し、慈悲の態度を発展させるといふ願望であり、生命を全体的にとらえるアプローチです。私たちは皆、こうしたことを促進する主体者となるべきです。これこそ「人間革命」なのです。

さて、サティヤグラハ百周年と、戸田会長の果敢な原水爆禁止宣言五十周年の記念の年の重要性について考えるとき、私の脳裡に浮かぶのは、各々が私たちの人生の目的と定めた大義への関与、献身と決意を強化することの必要性です。

かつて、ガンジーは次のように述べました。

「私は、あなたにお守りを与えましょう。あなたが人生の途上で出会うかもしれないもつとも貧しい人間のことを考えてください。そして、その人の人生の質を改善するためにはどのような決断をすればよいのかを、自らに問うてください。そうすれば、あなた自身の疑問が消え去っているのを知ることができます」と。

この言葉は、人間的事であることへの非常に深い祈りであるとは思えないでしょうか。そして、池田大作博士が「私には使命があります」と語られたとき、私は、そこにガンジーと同じ感情と概念を見出しました。使命とは何をさすのでしょうか。その使命とは、青年たち、特権をもたない人たち、そして受動的な女性たちを教育することであり、また、人々が人類から戦争という悪を排除し、狭量さと傲慢さに対して戦い、変革の主体者となれるように教育することです。

結語

池田博士が「広宣流布」の活動を始めたとき、そして、ハワイへの歴史的な訪問を行ったとき、批評家た

ちは当初、この任務の重要性を理解することができませんでした。しかし、使命達成のためのためゆみなき精神をそなえ、人類の幸福のために活動する献身的な指導者にとつて、不可能なものはありません。不可能という言葉は、彼の辞書には存在しないのです。「人間革命」と「広宣流布」は、新しい、より勇敢な、より良い、より幸せな二十一世紀を開きゆく確かなカギです。二十一世紀は、「幸福な世紀」、「創価学会の世紀」となるでしょう。

最後に、私は次のことを告白したいと思います。私は、池田博士とお会いし、意見を交換し、対談を行う機会を得るといふ荣誉に浴しました。そして、池田博士の類まれな人格と卓越したリーダーシップ、および平和創出へのきわめて価値のある活動について、四冊の書籍を出版してまいりました。私は、池田博士という「運命の人」と知己になることができたことを、非常にうれしく思っております。

私は、池田博士にお会いして以来ずっと、「生きているガンジー」であると思ってきました。私は、生きて

いるガンジーに直接、会うことはできませんでした。ガンジーが暗殺されたとき、私は四歳の子どだったのです。しかし、私は、ガンジーといくつかの活動とともにした父のおかげで、「私のガンジー」というものを考える幸運に恵まれました。私が、ニューデリーの「国立ガンジー記念館」で十二年間も館長を務めることができたことは、私の「カルマ(業)」でした。

池田博士に初めて会った後、私が博士を「生きているガンジー」と考えたのは、博士が世界平和、社会秩序、個々人の変革と「人間革命」という、ガンジーが未完のまま残した課題を完成するために、ご尽力されているように思えたからです。ハワイ大学のグレン・ペイジ教授の影響を受けて、私は、池田博士の哲学を、非仏教的視点、人間主義的視点、ガンジー主義的視点から研究しました。不戦世界にとつて、池田博士は私たちの指導者であり、博士が与える人類の未来とリーダーシップは、非常に重要なものなのです。

マハトマ・ガンジーのサティヤグラハ百周年の佳節に当たり、私は、この偉大な先見者であり、哲学者

であり、諸機関の創設者であり、不戦世界と世界市民のための人間教育の先駆者であられる池田博士に、頭をたれたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。皆さま方の幸せを、心より祈っております。

(N・ラダクリシュナン／インド国立ガンジー記念館元館長、

マハトマ・ガンジー非暴力開発センター議長)

(訳・くりはら・としえ／東洋哲学研究所主任研究員)

(本稿は2007年4月3日に行われた、

日印共同シンポジウムでの講演を抄訳したものです)